
魔・継承者

哀戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔・継承者

【Nコード】

N2773F

【作者名】

哀戦士

【あらすじ】

命の次に酒が好きなマコト。そんな奴がある夜、恐ろしく不思議な体験をした……。それをきっかけにさらにおそろしく謎だらけのできことが……。いったいどうなってしまったんだろうか？

第一魔：化け物（前書き）

はじめまして、哀戦士です。

今回は、初、連載小説を書きますっ！

そこで注意！

- ・くだらないかもしれないので、つまらないかも！そのところは気をつけてください。
- ・評価なので、ご指摘などがあればぜひ、教えてください。

以上。

第一魔：化け物

暗い夜に光を照らす電灯には、何匹もの虫がたかっていた。

そんな中を歩いてきた男、マコトは酔いつぶれてふらふらとあつちに行ったり、こっちに行ったりとなんと不安定な歩きをしていた。

「ほりやく、ひつく……。もうだめくん。」

そのだらしない姿は、周囲に目立った。

だがそんなことお構いなしに、一軒の居酒屋に吸い込まれるように入って行った。

そして、カウンター席に座り人差し指を思いつきり突きたて、

「親父！酒を一杯！！」

そのマコトのだらしない姿と呆れた一言に、居酒屋のマスターはため息をついた。

マスターは、グラスに氷をいれ酒を片手に持ち、ドボドボと注ぎ込んだ。

「マコトさん、いつものやつでいいんだろ??」

「ひつく……。もちろん。」

マスターの持つ酒の入ったグラスをマコトの前に置いた。

それをマコトはグビグビと喉に流し込んだ。

マスターは、その勢いに「こいつ、あんだけ他の店で飲んどいて、よく、まあこんな勢いで飲むな」と思っているようなりアクシヨンをとった。

「マコトさん、もうこれが最後にしろよ。」

この発言は、マコトを気づかす言っているように見えるが、本当の理由は、もう店を閉店する時間なのでさっさと帰ってほしいということなのだ。

「ひつく……。もうちょいここにいていいだろう。ひつく……」

「駄目です！もう閉店の時間なんですから……。」
マコトはその時、マスターの右手を強く持って、
「水臭いこといわないでよ、俺とマスターは、長年の付き合いだ
ろ〜！」

この言葉に、「あんたとは別にそんなに付き合い無いし……。」
と店長は心の底から思った。

その時！

グシャシャ……ガス……

店の外から、大きな物音が聞こえた。

その音は、ちゃんと店長とマコトの耳に入っており、少しの驚きを見せた……。

「店長……、なんださっきの物音は？……ひつく。」

「ど、どうせ野良ネコがなんかしたんだろ……。」

そんなことを言うマスターであるがその顔を見るとマスターの怯えが分かる。

「俺、ちよつと裏行つて、酒をとつてくるよ……。」

「おい、マスター！酒、付き合いよお〜。」

だが、そんな言葉に聞く耳をもたずに立ち去っていった。

「ちえ、あのクソマスターめ！へっ、どうせ俺は一人ぼっちですよ
くだっ〜！」

マコトがいじけている中、さっきの物音が大きくなってまた聞こえた。

ガササ……ゴサ……グシャシャ……

これにさすがの泥酔のマコトも怪しく思えた。

「ネコがこんなにするかね〜……。おいっ！マスター〜！！！」

バーン・・・ドン・・・ドーン

化け物は見事にぶっ飛んで酒がいっぱい置いてある所に衝突した。
これがチャンスだと思ったマコトは、また全力で走り出し、逃げた。
その刹那、

「亜・クロドニア……………」

化け物の叫び声が、

「ギャー……シャシャー……！」

そして、化け物の声が途絶えた。
ふと、横を見ると……、

翼の生えた、黒い服を着ている人が……………」

「君、よく生きれたね、運が悪ければ……………」

「はあ……………??？」

「死んでたよ。」

今の状況がまったく把握できない。
謎の化け物、謎の翼が生えた男、そして……………、

マスターが死んでること.....。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2773f/>

魔・継承者

2010年11月17日03時57分発行